

4 月下旬の高温により生育が進み、昨年より 4～5 日早く南水の満開が確認されています。結実が不安定な南水等では結実状況やサビ等をよく確認し、予備摘果等の管理作業に入ってください。

アブラムシ類や黒斑病・黒星病予防のため、5 月末までは約 10～12 日間隔で薬剤散布を進めてください。尚、詳細は下記を読みください。

◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する）

5 月上旬の薬剤散布（前回から約 12 日後）

散布時期：5/2～7 頃（左記の時期は目安です）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
スコア顆粒水和剤	5 0 g（14 日前、3 回）
モスピラン顆粒水溶剤	2 5 g（前日、3 回）＊注意事項②参照

対象病虫害：黒斑病、輪紋病、アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、カメムシ類

散布量：10 a 当たり 350 リットル

～注意事項～

- ① 訪花昆虫が保護のため指定薬剤以外は使用しない。
- ② アブラムシ類の発生が早い場合は、今回の散布を早める。

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル

5 月中旬の薬剤散布（前回から約 10 日後）

散布時期：5/12～17 頃（左記の時期は目安です）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
トレノックスフロアブル	2 0 0 ml（30 日前、5 回）
ハチハチフロアブル	5 0 ml（14 日前、2 回）

対象病虫害：黒斑病、黒星病、赤星病、アブラムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当たり 350 リットル

～ 注意事項 ～

- ① 訪花昆虫が放飼されていますので、指定薬剤及び時期を厳守してください。
- ② アブラムシ類の発生園は、今回の散布を早める。

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル



西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

◆ 西洋梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する）

ラフランスの満開は、昨年よりも 4～5 日早く確認されました。今後は、結実状況をよく確認し、予備摘果作業等に入ってください。

アブラムシ類や腐らん病・輪紋病等の感染予防のため、適期に薬剤散布を実施してください。尚、詳細は下記をお読みください。

5 月上中旬の薬剤散布（前回から約 12 日後）

散布時期	5/5～10（左記の時期は目安です）
散布薬剤	水 1 0 0 ℓ 当り 展着剤 1 0 ml ベンレート水和剤 5 0 g（前日、4 回） モスピラン顆粒水溶剤 2 5 g（前日、3 回）
対象病害虫	輪紋病、胴枯病、（腐らん病）、アブラムシ類
散布量	10 アール当り 400 リットル
注意事項	① 訪花昆虫の保護のため指定薬剤以外使用しない。 ② アブラムシ類の発生が早い場合は、今回の散布を早める。 ③ 腐らん病感染拡大防止のため、病斑部にトップジンMペーストを塗布する。

◆ 西洋梨 5 月上中旬の重点作業

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル

① 主枝・側枝誘引

● わい性台樹

次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないために必ず実施する。

● 普通樹

主枝候補枝の誘引。オーロラは 45 度、ラ・フランスは 30 度を目安に誘引する。

② 予備摘果（満開 10 日後 から始める）

● 結実状況を確認したら早急に実施する。

● 基本的に弱い果そうは摘果するが、花芽が少ない場合は弱い果そうも利用し着果量を確保する。

③ 腐らん病対策

● 春先から多発傾向です。早めの抑制対策を講じてください。

● 病斑の処理は遅れば遅れるほど拡大します。見つけしだい削り取り処理や切除を行う。

● 削り取り後は、塗布剤（トップジンMペースト等）を塗布する。また、せん定の切り口等の感染源保護も確実に行ってください。

